

諮問 地域学校協働活動の充実について（概要）

「地域学校協働活動」とは

- ・幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、市民総ぐるみで、子どもたちの学びや成長を支える活動。
- ・地域とともにある学校づくり、地域における次代の人づくり、学校を核とした地域づくり、地域で家庭を支援し安心して子育てできる環境づくり等。
- ・子ども、学校、保護者、地域、それぞれにメリットがある。
- ・地域による学校の「支援」から、地域と学校が双方向にコミュニケーションをとり目標等を共有する「連携・協働」へと発展させることが大切。

掛川市における活動推進状況、充実への課題

- ①学校・家庭・地域が連携・協働して取り組む「市民総ぐるみの教育」の推進。
【課題】地域の理解をいただき、部局間連携をとり、「協働のまちづくり」の中で地域学校協働活動を進めていただくことが必要。
- ②中学校区学園化構想で設置され、地域住民や団体等が参画する「子ども育成支援協議会」による地域学校協働活動。
【課題】地域と一般教職員との結びつき、地域住民が学校と目標を共有し当事者意識を持って参加するような活動づくりが必要であり、学校と地域の橋渡し役となる地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の役割が重要。
- ③保護者や地域が学校運営に参画する「学校運営協議会」による地域との連携を生かした学校づくり。

地域学校協働活動の充実への視点

- ① 地域による学校支援から、地域と学校の連携・協働への発展促進。
- ② 子ども育成支援協議会や学校運営協議会を十分活かし、地域と学校との目標共有。
- ③ 地域住民が学校の状況を知り、自分の地域の学校には自分たちも参加して運営する当事者意識を高める活動づくり。
- ④ まちづくりに子どもの教育へ視野を広げていただき、地域ぐるみでの子どもへの関わりづくり。

具体的方策

- 1 子ども育成支援協議会（地域学校協働本部）の充実・発展
 - (1) 支援から連携・協働への体制整備
 - (2) 地域コーディネーターの企画力、コーディネート力の強化
- 2 地域への期待
 - (1) 「市民総ぐるみの教育」への体制づくりを
 - (2) 地域が学校を知る
 - (3) 学校（子ども）を核とした地域づくり
- 3 学校への期待
 - (1) 「地域とともにある学校」への視点を
 - (2) 地域に甘え、地域と共に子どもを育む
 - (3) 学校運営協議会と子ども育成支援協議会との連携
- 4 地域学校協働活動における活動事例 ～「これはもう地域で！」～
ー 地域ができること、学校が地域にやってほしいことを共有する ー
 - (1) 地域が学校に、地域の教育力を売りに行く
 - (2) 地域ができる地域学校協働活動 「これはもう地域で！」
- 5 行政の取組
 - (1) 「地域学校協働活動」「市民総ぐるみの教育」を市民が理解する取組を
 - (2) すべての地域で「地域学校協働活動」に積極的に取り組む姿が見られるために
 - (3) 地域学校協働活動を推進・持続化させるための体制の整備
 - (4) 活動場所の確保



地域学校協働活動の充実

令和元・2年度
掛川市社会教育委員会

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、**市民総ぐるみ**で、子どもたちの学びや成長を支える活動。

両輪となって推進

活動方針・取組内容
の共有



地域学校協働活動により期待される効果

子どもにとって

- ・地域住民等とのふれ合いや豊かな体験によって、自尊感情が育まれ、コミュニケーション能力が高まるとともに学習意欲も喚起される。
- ・地域の人と顔見知りになり、地域への関心・理解が深まり地域の担い手としての自覚が高まる。

学校にとって

- ・地域資源を生かした授業づくりが進められ、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりができる。
- ・子どもの教育を保護者や地域住民等と共に担うことが、ひいては教員の負担軽減になり、授業準備や子どもと向き合う時間が増える。

保護者にとって

- ・保護者同士や地域の人々との人間関係が構築でき、家庭教育支援につながる。
- ・地域の中で子どもが育てられているという安心感が生まれ、学校や地域に対する理解が深まる。

地域にとって

- ・地域住民が自らの経験を子どもの教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会となる
- ・子どもと地域住民が繋がるだけでなく、大人同士の絆が深まり地域の教育力が高まり、まちに活力が生まれる。